

平成 29 年度 海部地域産業労働会議における主な発言要旨

日時：平成 29 年 8 月 28 日（月）

午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで

場所：愛知県海部総合庁舎 2 階 201 会議室

（鉦工業品）

- ・繊維業界にとっては、人口構成の高齢化やクールビズが大きな障壁になっている。また、節約志向が常態化し、購買意欲が低下していることにも問題がある。
- ・尾州の毛織物は、非常に手をかけて製造するため、他産地のものと比べるとコスト競争力がない。
- ・尾張七宝は、下請けがなくなり全工程を自分で行うため、生産量が減少し、次の世代を育てる足かせとなっている。
- ・最近若い世代が、七宝焼のアクセサリなどを作り、マスコミで取り上げられるようになった。この手の新製品を、様々な縛りのある尾張七宝の伝統的工芸品として取り扱うのは難しい点もあるが、こうした動きをきっかけに伝統的工芸品としての七宝焼が注目されることを期待している。
- ・後継者不足、人材不足が生じている。

（農林水産物）

- ・海部レンコンも農家の減少により、生産量が低下している。
- ・5 年ほど前から毎年、レンコンの消費を増やすため、3 月の最終土日には、道の駅で「レンコン料理コンテスト」を行い新しい料理方法を発表してもらっている。
- ・平成 22 年から平成 24 年にかけて、津島の地域資源を活用した「信長めし」「信長スイーツ」の開発を企業と連携して行った。
- ・津島にお土産がないとの声を受け、平成 26 年度に地域資源も利用した「津島特産品ガイド」を作成した。これをふるさと納税の返礼品に加えてもらい、大きな PR 成果を得ている。
- ・大治町の赤シソを使用したリキュール、カレー、ポン酢を開発した。
- ・蟹江町のイチジクを利用して、商工会がイチジク生産農家からイチジクを直接仕入れ、それを会員に提供して商品化する事業を行っている。洋菓子や和菓子を商品化したが、夏場の期間だけとなるため、もう少し長い期間イチジクを味わってもらえるよう白ワインで煮込んだイチジクを開発した。
- ・蟹江町商工会では沖縄県の読谷村商工会と協定を結び、相互にお祭りに参加してお互いの特産品を売るなどの PR を行っている。また、沖縄の泡盛でイチジクをつけたものを商品化してこれから売り込んでいきたいと思っている。
- ・弥富の金魚は、「宇宙に飛んだ金魚」など全国的に知名度はあるが、それがなかなか成果として広がらず、売上アップにつながっていない。

- ・弥富市では、農業に元気がある。食用のバラを使ってソフトクリームやワインを作っている。また、市内の洋菓子、和菓子店の協力のもと金魚のスイーツを中心としたスイーツマップのスタンプラリーを計画している。

(観光資源)

- ・海部地域全体の観光資源を広域にPRするため「海部地域観光ネットワーク協議会」を開催し、来年度、海部地域の広域観光マップを作成することとして現在準備を進めている。
- ・津島に多くある神社仏閣が宗派を超えて連携し、「御朱印めぐり」を行っている。
- ・蟹江町では、昨年12月にユネスコ登録された須成祭が行われる龍照院の天王橋の近くで、土地を寄付してもらったので、国の「地方創生拠点整備事業交付金」を活用し、観光交流センター「須成ミュージアム」を建設中である。今後は、このセンターを拠点に観光協会、商工会とも連携を深め蟹江町に多くの人を招き、須成祭を大きくPRしていきたいと考えている。
- ・愛西市商工会では、古来より栽培が盛んなレンコンを活用して食と花をテーマとした地域活性化と観光振興に向けた取り組みとして、県の「食と花の街道」認定事業の申請を進めている。
- ・現在、愛西市では船頭平閘門の観光船事業を行っているが、今後は木曾川河川下流事務所と連携してケレップ水制や昔の幻の堤防跡等、木曾川周辺にある観光資源を活用した新たな観光事業を展開していくことを計画している。
- ・弥富の水郷の塔を恋人の聖地として登録していく計画をしている。
- ・飛島村でも観光にも力を入れていくこととなり、本年度「観光交流協会」を立ち上げるようになった。その中で、こういったところが観光資源になるのか現在検討を重ねている。

(その他)

- ・海部地域（各市町村）の知名度が低いと言われる。
- ・地域の活性化には、小売業を活性化させることが重要なので、自分たちの住んでいる町にこんな小売業があることを知ってもらい、少しでも地域の方々に自分たちの町で買い物をしてもらうために、スタンプラリーを行っている。
- ・これからの企業家は、店舗を構えて売るのではなく、インターネットを利用して商売をすることができるので、商工会としても考え方を変えていかなければならないと思う。
- ・あま市では、商工会、宅建協会と連携して、空き家、空き地、空き倉庫を使った新たな創業支援について協定を結び、市内に事業者を増やす努力をしている。
- ・海部地域は県内で一番歴史がある地域だが、観光資源も含め、保有する資源を有効に使い切っていない面がある。また、変えていこうにも変えていけない状況におかれているという気もする。しかし、色々な行政の施策を活用しながら、その豊富な資源を活用してもらえればと考える。